

<駅中心地区の将来像>

将来像：『世界に開かれた生活文化の発信拠点“渋谷”のリーディングコア』
 —職・住・楽の連携により新しい文化を創造・発信し、環境と共生するまちを目指して—

駅中心地区を渋谷全体の「リーディングコア」と位置づけることで、駅中心地区から渋谷全域への波及効果を促進し、世界に開かれた生活文化発信拠点の実現化を図る。

■ 渋谷駅周辺地域における5つの整備方針

① 世界に開かれた“生活文化”の発信拠点“渋谷”

渋谷発の生活文化の創造、世界への発信

② 谷地形を活用した環境と一体化したまちづくり

—水と緑の軸・風の道の形成
 —“渋谷らしさ”を具現化する顔づくり・景観形成

③ 交通ネットワークの強化・改善による多世代が歩いて楽しいまちの形成

—坂道と谷を活かした、にぎわいと回遊性のある街
 —歩行者中心の歩いて楽しいまちの形成

④ 安全で安心できる環境・しくみの再構築の推進

災害に強く犯罪の少ない街の形成

⑤ 駅施設の再編を契機とした連鎖的なまちづくり

周辺地区への波及・連携による地域の活性化

■ 駅中心地区が持つ特性・課題

- 既存の文化施設は、若者文化に代表されるように、街中に分散して立地
- 駅中心地区には国際文化都市渋谷の核に相応しい集積が無い（文化会館の閉鎖等に伴い、シンボリック施設が欠如）
- 谷地形がゆえに、「熱が溜まる」「水が溜まる」
- 軸や界隈を基調とした景観
- 谷地形の底・中心、また交通結節点としての象徴的な景観
- 一大交通結節点として交通利便性が非常に高い
- 反面、乗換えや移動におけるバリアが多く、駅中心地区の動線ネットワークの改善が求められる
- 駅中心地区内で、明治通り・R246が交差しており、通過交通等が過度に集中
- 駅中心地区の主要な建物が老朽化しており、更新が必要とされている
- 駅中心地区にもかかわらず、狭小敷地やペンシルビルが多く立地し、また老朽化が進んでおり、一層の高度利用・更新が必要とされている
- 現在、駅施設の改良が検討されている
- 都市基盤施設と併せた段階的・連鎖的な整備を予定
- 鉄道が集中し、鉄道利用が多く、車用が少ない
- 渋谷駅周辺地域は住宅を含めた複合市街地を形成しており、広域的には広域渋谷圏の中心部に位置

駅中心地区の将来像を実現する7つの戦略

戦略1 “生活文化”の発信・交流拠点の形成

- 世界への発信と集客、マルチチャンネルな交流を促す“文化のシンボルエリア”の形成
- 渋谷らしい“生活文化”のライフスタイルを支援し、住環境の魅力を増進する機能の導入
- アーティスト・クリエイター、クリエイティブ産業の集積を促す環境の整備

戦略2 “谷を冷やす”～水・緑を活かした谷空間の環境づくり～

- エネルギー利用の効率化による地球温暖化対策の推進
- クールスポット・ネットワークの整備により、谷を冷やす
- 風の道・水と緑のネットワークにより、潤いある都市空間の形成

戦略3 子供からお年寄りまでの多世代が歩いて楽しいまちの実現～谷の地形を活用した“多層的な回遊ネットワーク”の形成～

- 地上部をメインとしながら、谷地形をフラットにつなぐ歩行者ネットワークの整備
- 多層な都市基盤やまちをつなぐ“縦軸空間”の整備
- 人々が憩い・たまれ、交流できる広場空間の整備

戦略4 駐車場・物流施設等の集約化による駅中心部の交通負荷の低減

- 駐車場の集約化・ネットワーク化、および効率的な運用
- 荷捌きシステムの適切な確保、および効率的な運用

戦略5 街区再編や拠点開発による、災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちの実現

- 駅施設をはじめとした、まち全体の防災機能の多面的な強化
- 帰宅困難者対応
- まちづくりと連携した防犯対策

戦略6 谷、軸、通り・界隈を生かした“渋谷らしさ”をもった景観形成

- 渋谷の玄関口にふさわしい、まちのアクティビティが感じられる駅前の顔の形成
- 渋谷のランドマークを形成するシンボリックな景観の形成
- 渋谷らしい個性的な街並み、多様な界隈、活気とにぎわい景観の形成
- 周辺とも連携した水と緑がたらなる景観の形成

戦略7 渋谷の将来像を具現化するまちづくりの進め方

- 多様な基盤整備と一体となったまちづくりの進め方（公民連携による整備の進め方）
- 段階的、連鎖的なまちづくりの進め方（まちの整備手順）
- まちのマネジメントの体制、内容（計画段階、事業実施段階、運営段階）